

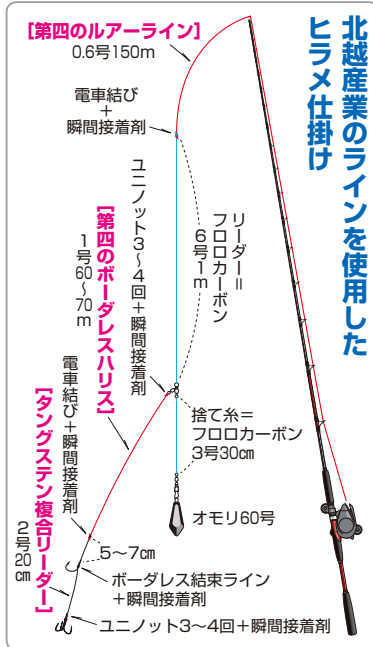
北越産業 待望の船、ソルト用新製品ラインナップ

Hokuetsu

各製品は
1月17日より開催の
釣りフェス
ティバル2020
釣りフェスティバル
Fishing Fest. 2020 in Yokohama
北越産業ブースにて
ご覧いただけます

各ラインの結節法

●第四のライン、第四のボーダレスハリスをスイベルなどの金具に結ぶときは2重にしてユニノット3~5回、緩く締めて瞬間接着剤を使用。同社併売の「ボーダレス結束ライン」をセキ糸、根巻き糸として活用するとマックス強度を引き出せる。ライン同士も同様だが、FG、PRノットでも結束は巻き終わったら編み込みをしないで瞬間接着剤を使用。



第四のルアーライン

★高比重、高強度の素材ポリアリレート採用の道糸。4本から最大8本ヨリで仕上げ、素材の滑らかさも追求。伸度3.2%、比重イメージ2のハイブリッドライン。

Spec: 0.2 (6), 0.3 (7.5), 0.4 (9), 0.6 (16), 0.8 (20), 1 (25), 1.5 (35) 号の各種。号数により100、150、200、300m巻きを用意。カラーはレッド、価格はオープン。



▲出船前に仕掛けを作製。北越産業のラインを使用する際は瞬間接着剤が必要不可欠



第四のボーダレスハリス

★同じくポリアリレートの特長を活用したリーダー。軟らかく、吸い込みやすいしなやかさを持つ軟質軽量リーダー。魚に警戒心を与えないダークレッド、ダークグリーン。

Spec: 0.2 (5), 0.3 (7), 0.4 (9), 0.6 (12), 1 (18), 4 (60) 号の各種。長さ各10m巻き、価格はオープン。



▲平野さんグループは2人が第四のルアーラインを使用
▼タングステン複合リーダーと第四のボーダレスハリスを使用した仕掛け



タングステン複合リーダー

★タングステンとポリアリレートの複合ライン。高比重、高強度で根ズレや鋭い歯にもビクともしない強度を誇る。タングステンは結べないという常識を翻し、リーダーやハリへの結節も可能。

Spec: 0.2 (5), 0.3 (6.5), 0.4 (9), 0.5 (11), 0.6 (13), 0.8 (15), 1 (17), 2 (34), 3 (44), 10 (113) 号の各種。長さは各10m巻き、カラーはダークレッド、ダークグリーン、価格はオープン。



▲加藤さんの手慣れたヤリトリ
▲港前の浅場に移ってから良型連発

※ () 内はマックスポンド数

▲当日最大は5キロ弱

「タチウオやサワラでも実証済み。何も気になりません」と平野さん。その後もう1枚2キロ級を追加し、11時半に大満足の沖揚げりとなった。

ここは数日前からイワシの回遊が見られ、水深はわずか10メートル前後ながら2キロ以上の大型がそろそろポイント。開始早々、右舷で2キロ級が取り込まれると、あちこちで大きく竿が絞り込まれる。釣れ上がるのは2キロ前後を中心とき3~4キロ級といずれも良型ばかり。やや遅れて平野さんにも1枚目のアタリ。水深が浅いので引きは強烈、時おりは竿をのさばる場面もあったが、本人は楽しそうに余裕のヤリトリ。それもラインを信頼している証だ。上がったのは3.5キロの大型。親ハリの口の奥、タングステン複合リーダーが鋭い歯に当たる掛かり方で、

航程30分ほどで30メートルダチの釣り場に到着。中型を中心に数が望めるポイントだったが、当日は潮の濁りがひどく、船中で1キロ前後が数枚上がったところで鹿島港沖のポイントへ移動となる。



★ライン強度は絶対安心、余裕のヤリトリ

ヒラメ仕掛けに新提案 第四のライン、 複合リーダーの最強コンビ 最強ラインで 攻めのヒラメ釣り

★ラインが歯に当たってもタングステン複合リーダーなら安心

●「複合メタルライン」、「第四のライン」を始めとし、従来のラインの常識を覆す製品を輩出してきた「北越産業」が、いよいよ海釣り用のライン生産に本格参入した。「第四のルアーライン」、「第四のボーダレスハリス」、「タングステン複合リーダー」などのソルトルアー&沖釣り用のライン群だ。今回はそれらを使用したヒラメ釣りの模様をお届けする。



ハリスは「第四のボーダレスハリス」1号。これもポリアリレートを素材としたラインで、強度は18ポンド(強度8キロ以上)を示す。仕掛け上部5センチから孫ハリにかけては「タングステン複合リーダー」2号。ポリアリレートとタングステンとの複合ラインだ。強度は34ポンド(15キロ以上)、ヒラメの鋭い歯にもビクともしないタングステンを使用しているの、ハリス切れの心配は無用とのことだ。



茨城県鹿島港出船

★当日は数より型狙い。ライン強度を見るには好都合の日だった



▲同行の小峰和美さんはアユ釣り界の重鎮、この時期はヒラメに傾注
▲シマノアユインストラクターの加藤正士さんも第四のルアーラインを使用して3キロ級

昨年12月に全面解禁して以来、茨城県鹿島沖のヒラメは好調に釣れ続けている。北越産業代表の平野和之さんもすでに数回の釣行を済ませ、その都度平均値以上の釣果を得ているという。この日、乗船したのは鹿島港の不動丸。釣り仲間4人と左舷に並び、5時に港を離れた。平野さんの道糸、ハリス、仕掛け回りに使用するラインは、通常の製品と一線を画している。まず道糸には「第四のルアーライン」0.6号。高強度、高比重、高強度のポリアリレートを採用した8本ヨリラインで、強度は16ポンド(7キロ以上)。「ヒラメ釣りでは0.6号で十分。潮切れがいいので感度もアップします」